



平成20年11月14日

各 位

会社名 株式会社紀陽ホールディングス  
代表者名 取締役社長 片山博臣  
(コード番号 8415 東証・大証第1部)  
問合せ先 常務取締役グループ企画部長  
米坂 享  
(TEL 073 - 426 - 7133)

## 平成21年3月期通期の連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年10月6日に発表しました当社の平成21年3月期通期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）の連結業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

### 記

#### 1. 株式会社紀陽ホールディングス連結業績予想の修正内容

(1) 平成21年3月期通期の連結業績予想（平成20年4月1日～平成21年3月31日）  
(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（平成20年10月6日発表）(A)	88,200	8,400	8,600
今回修正予想 (B)	87,000	800	4,300
増減額 (B) - (A)	△ 1,200	△ 7,600	△ 4,300
増減率	△ 1.4%	△ 90.5%	△ 50.0%
(ご参考) 前期実績（平成20年3月期）	89,558	10,617	13,359

※当社単体の業績予想につきましては、変更はございません。

#### (2) 業績予想の修正の理由

子会社である株式会社紀陽銀行の通期業績見込を変更することを主因とした、業績予想の修正です。詳細については、下記2. をご覧ください。

#### 2. 株式会社紀陽銀行の単体業績見込

##### (1) コア業務純益

政策金利の引き下げに伴い資金利益が減少し、また投資信託や個人年金保険などの販売手数料については投資環境の混乱から厳しい状態が続くと見込まれますことから、コア業務純益は前回公表時よりも減少すると見込んでおります。

##### (2) 有価証券関係損益

10月以降の世界的な金融市場の混乱により発生する有価証券の損失確定処理や減損処理を織り込んでおります。

(3) 与信コスト総額

地域経済における景況感が悪化しているなかではありますが、不良債権比率が低下し、かつ過去に保守的な引当をおこなってまいりましたことから、与信コスト総額は前期を下回るものと見込んでおります。

(4) 法人税等

有価証券関連の損失が増加することを主因として、繰延税金資産の残高が増加するものと見込んでおります。

(単位：億円)

	前回発表時 見込(a)	今回 見込(b)	増減額 (b)-(a)	(ご参考) 前期実績
業務粗利益	530	476	△54	591
うち資金利益	524	516	△8	517
うち役務取引等利益	64	62	△2	67
うち債券関係損益	△55	△100	△45	5
経費	360	360	0	364
コア業務純益	225	216	△9	221
臨時損益	△76	△94	△18	△100
うち不良債権処理損失	65	63	△2	93
うち株式関係損益	△19	△40	△21	△26
経常利益	93	22	△71	117
特別損益	6	9	3	△33
うち償却債権取立益	12	14	2	27
うち貸倒引当金戻入益	0	1	1	—
うち親会社株式売却損	—	—	—	51
法人税等	8	△22	△30	△5
当期純利益	91	53	△38	88
与信コスト総額	53	48	△5	76

以上

(注) 本資料の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。